

日本点字事情 かわら版

横浜市立盲学校
点字研究部

1998年10月26日発行 NO.7

文責 道村静江

今回は紙面の都合上、前文なしで始めます。(次号に説明を載せます。)

14. 「暫定修正案・・・記号等の概略」の提案

<日本点字委員会・点字科学記号専門委員会>

1. 暫定修正の範囲について

小学校算数の分野における初等的な記号については、原則として変更を加えない。他の教科の関連表記についても同様である。したがって、近く改訂が予定されている中学校・高等学校の数学及び理科系・技術系等の各教科書の関連表記の範囲とし、大学での教材の表記は対象外とする。

また、情報処理用点字体系についても、今回は変更が及ばないものとする。

例1：文部省著作算数点字教科書における、小数点、四則演算子、等号、小カッコ、単位などは、変更しない。

例2：日本語文中の情報処理用記号体系は従来通り、 $\cdot\cdot\cdot\cdot$ ~ $\cdot\cdot\cdot\cdot$ (6・リガリ、6・ワガリ)ではさむ。

2. 暫定修正案の概要

(1) 文字および字体

物理等においては、変数・定数が斜体で、物体名称等は正体(立体)で扱われており、区別を明確にする必要があったが、外字符だけでは不十分であったので、原則として正体(立体)には (5の点)を前置する。

例：コンデンサー $\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot$ (56・5・6・C)の容量を $\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot$ (56・6・C)クーロンとする。(墨字では、前者が正体、後者が斜体)

(2) 数式指示符

現在、特に文中では「ニマスあけ」だけで区別されているが、行末では判別できないなど、不明確であったので、これまでもつけられていた、アルファベットで始まる数式と同様に、数式には数式指示符 $\cdot\cdot$ (56)を前置することを原則とする。ただし、数符および日本語(レガリワガリで挟まる)で始まる数式を除く。

例：aの平方根を $\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot$ (56・ヨ・ア)と書く。

(3) 図形記号における大文字の使用法について

数式中の大文字の連続については、それぞれの大文字を前置するのが原則であり、図形記号に用いられる大文字の連続についても、基本的な考え方は同様であるが、「ひとまとまりに表現される図形記号の大文字群については、二重大文字を用いることができる」とした。

墨字で亀甲カッコが使用されている場合は、これまでと同様、数式上の角カッコか、単位を表しているかなど、意味を判断して使い分ける。

如何でしたか？改訂の意図はつかめましたでしょうか？これだけの文面からは細かい部分については疑問点が残りますが、いずれ具体的な用例が示されることと思います。